

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成25年8月

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会

目 次

1	評価対象法人の概要	1
2	評価の実施根拠法	1
3	評価の対象	1
4	評価の趣旨及び評価者	2
5	評価方法の概要	2
	（1）評価基準	2
	（2）評価の手法	2
6	評価結果	3
	（1）総合的な評定	3
	（2）年度計画の各項目ごとの評定	4
	1. 診療計画及び診療に関する重点事項	4
	2. 施設設備整備	5
	3. 患者数の見込みと収支計画	5
	4. その他業務運営に関する重要事項	6
	（3）地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等	6
	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成24年度業務実績に関する評価基準	7
	参考資料 平成24年度実績に関する評価（項目別評価シート）	8

1 評価対象法人の概要

- (1) 法人名等
- | | |
|-----|---------------------|
| 名 称 | 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 |
| 代 表 | 理事長 栗谷 義 樹 |
| 住 所 | 山形県酒田市あきほ町30番地 |
- (2) 設立年月日 平成20年4月1日
- (3) 設立団体 山形県及び酒田市
- (4) 資本金の額 10,124,779,678円(平成24年9月24日変更登記時)
- (5) 中期目標の期間 平成24年度から平成27年度(4年間)
- (6) 目的及び業務

ア 目 的

地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

イ 業 務

- ① 医療の提供に関すること。
- ② 医療に関する調査及び研究に関すること。
- ③ 医療に関する技術者の研修に関すること。
- ④ 医療に関する地域への支援に関すること。
- ⑤ 災害時における医療救護に関すること。
- ⑥ 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

2 評価の実施根拠法

地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)第28条

3 評価の対象

平成24年度における地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の年度計画に対する実績の状況

※年度計画・・・中期計画に基づき、当該年度における業務運営に関する計画を定めたもの

4 評価の趣旨及び評価者

(1) 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構（以下「病院機構」という。）が、庄内地域における中核病院である日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センターの運営を行うにあたり、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の効率化等について自主的、継続的な見直し及び改善を促すことを目的に、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が業務の実績評価を行う。

(2) 評価委員会

委員名	氏名	役職等
委員長	嘉山 孝正	山形大学 学長特別補佐・ 重粒子線がん治療施設設置準備室長
副委員長	大内 憲明	東北大学医学部長
委員	片桐 晃子	NPO法人にこっと理事長
委員	佐藤 正一	日本公認会計士協会山形県会
委員	本間 清和	山形県医師会（酒田地区医師会長）
委員	大野 省太郎	酒田商工会議所副会頭 （東北電機鉄工株式会社 代表取締役社長）

（委員名順：順不同）

5 評価方法の概要

(1) 評価基準

病院機構平成24年度業務実績に関する評価基準。（別紙のとおり）

(2) 評価の手法

病院機構の自己評価結果を含めて聴取し、これをもとに評価する。

6 評価結果

(1) 総合的な評定

評価委員会は、病院機構より提出された、平成24年度計画に係る事業報告書及び評価基準により自己評定した結果について、適正な評価であると認め、総合的には「非常に優れている」ものとして評価する。

平成24年度は、地方独立行政法人設立後5年度目、第2期中期目標期間の初年度となる。日本海総合病院では、地域の中核病院として急性期医療の強化や、高度医療機器の導入を図るなど高度・専門医療の更なる充実に努めており、酒田医療センターでは、増改築の完成と併せ回復期医療への取組みが本格化されており、第1期中期計画から進められてきた医療機能の連携、分担が一層進められたことは非常に優秀なケースとして評価するものである。

施設、設備等の面では、日本海総合病院において、新たにPET/CTの施設整備が完了し、平成24年6月より運用を開始した。一方、酒田医療センターについては、増築・改修工事、旧棟の解体作業が完了し、一部エントランス棟の完成を残し平成24年7月より運用を開始している。

財務内容については、設立初年度より5年間、引き続き黒字決算を計上。急性期病院である日本海総合病院では延入院患者数と延外来患者数とも前年度より減少したものの、平均在院日数が引き続き短縮されていることや、地域医療支援病院に指定されたことによる地域医療支援病院入院診療加算、救急A評価による救命救急センターの救命救急入院料加算などの算定及び入院診療単価の増などにより大きく黒字決算となっている。また、病院機構全体においても中期計画全体の目標である経常収支比率100%以上が引き続き達成されている。

来院者の利便性向上については、外来の待ち時間調査を実施し実態や患者ニーズを把握するなど、一定の取り組みがなされている。

職員配置、就労環境の整備の面では、院内保育所の24時間保育を継続し、病児・病後児保育の継続、医師の短時間正職員制度の導入、法人が教員部門を担う酒田市立酒田看護専門学校の看護教員の養成、医師や看護師の負担軽減を図るためにクラークや看護補助者を配置するなど、優れたスタッフの確保と業務負担軽減についても、引き続き積極的な取組みが見られるところである。

在宅介護支援及び療養支援の面でも、病院内に地域医療室が相談窓口として設置されており、また、「ちようかいネット」の活用により他の医療機関等との連携の面でも大きく効果を上げている。

以上、全体として、病院機構が統合再編・法人化により進めてきた医療機能の役割分担による効率的な業務運営が、第2期中期目標期間に入ってきてより鮮明な効果が見受けられるようになった。平成24年度計画に対する業務の実績についても引き続き良好であり、病院機構の業務運営に対する努力については、評価委員会としては非常に高く評価するものである。

(2) 年度計画の各項目ごとの評定

評価委員会では、病院機構側の自己評定をもとに、以下の71項目について評価を行った結果、評価Sが11項目、評価Aが56項目、評価Bが4項目という評価結果とした。評価S、評価Aが項目のほぼ全体を占めている。

1. 診療計画及び診療に関する重点事項

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

病院の統合再編から進めてきた2病院の医療機能の分担により効率的な業務運営がなされており、また、業務実績についても非常に良好であり、期待以上の成果が見受けられる。

ウ 評価した項目

①項目数

62項目 【評価 S：8、A：50、B：4】

②特筆すべき項目

- ・ 日本海総合病院においては、平成24年6月よりPET/CTの運用が開始され、がん診断機能の充実が図られている。
- ・ 酒田医療センターにおいては、増築、改修が行われ、平成24年7月より新しい病棟での回復期リハビリテーションが開始され、リハビリテーション機能の充実が図られている。
- ・ 日本海総合病院と酒田医療センターにおける医療機能の分担により効率的な業務運営がなされ、引き続き経営の効率化、健全な病院経営に対する取り組みが行われている。
- ・ 様々な業務改善などを実施するとともに医師事務補助のクラークや看護補助者の配置を拡大し、医師や看護師などの業務の負担軽減を引き続き図っている。
- ・ 電子カルテをベースとした院内クリティカルパスについては、5大がん及び大腿骨頸部骨折に加えて、脳卒中パスを新規に稼働させた。
- ・ 他の地域医療機関との役割分担と連携の強化、地域連携クリティカルパスの整備普及のため、地域医療情報ネットワーク（「ちょうかいネット」）を運用している。また、近隣の鶴岡市の医療機関の加入も増加しており、庄内地域全体に活用が拡大している。

2. 施設設備整備

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

酒田医療センターの増築・改修工事は一部エントランス棟を残し完了、運用が開始されている。また、高度医療機器の計画的な更新・整備についても継続的に行われている。

ウ 評価した項目

① 項目数

2項目 【評価 A : 2】

②特筆すべき項目

- ・ 酒田医療センターの増築・改修工事が一部エントランス棟を残し完了し、回復期リハビリテーション病棟が運用を開始している。
- ・ 高度医療機器の計画的な更新・整備として、平成24年6月にPET/CTが稼働した。

3. 患者数の見込みと収支計画

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

2つの病院を合算した延入院患者数、延外来患者数は前年度よりも減少したものの、日本海総合病院では、平均在院日数の短縮が継続されたことや、地域医療支援病院に指定されたことによる地域医療支援病院入院診療加算、及び救急A評価による救命救急センターの救命救急入院料加算などの算定により入院診療単価が大幅に増えたこと、酒田医療センターにおいても回復期リハビリテーションの開始により収益が増加していることなど、平成24年度も引き続き黒字決算を達成している。営業損益段階でも黒字であり、また、経常収支比率100%以上を達成するなど、引き続き経営管理指標の改善が図られ、財務内容についても良好である。

ウ 評価した項目

①項目数

1項目 【評価 S : 1】

②特筆すべき項目

- ・ 単年度収支において黒字を計上、営業損益でも引き続き黒字を計上している。

- ・ 経常収支比率（経常収益／経常費用）104.7％を達成。昨年度の102.4％を上回っている。
- ・ 人件費・材料費・経費の営業収益比率とも全国の500床以上の自治体黒字病院の平均値以下を達成した。

4. その他業務運営に関する事項

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

法人の運営体制については、計画どおり、2つの病院における弾力的な人員配置が行われた。また、業務改善委員会を立ち上げさまざまな業務の見直しを行ったことなどにより、業務の改善・効率化が進んでいる。また、院内保育所の24時間対応を継続し、平成25年度からは日数拡大を予定している。病児・病後児保育においても継続がなされ就労環境の整備が図られている。また、教育部門では酒田市より受託している酒田市立酒田看護専門学校への支援として、日本海総合病院看護教務部の職員を「酒田看護専門学校」の教員として常勤させ、新たな看護教員養成にも務めている。

平成24年度から酒田市の離島にある市立飛島診療所に常駐医師が不在となったことから、4月～10月まで週1回の割合で医師を派遣し診療支援を行っている。

ウ 評価した項目

①項目数

6項目【評価 S：2、A：4】

②特筆すべき項目

- ・ 院内保育所については24時間保育を継続し、平成25年度からは日数の拡大を予定している。また、病児・病後児保育も継続しており就労環境の整備が図られている。
- ・ 酒田市立酒田看護専門学校への支援として、日本海総合病院看護教務部の職員を「酒田看護専門学校」の教員として常勤させ、新たな看護教員養成にも務めている。
- ・ 平成24年度から酒田市の離島にある市立飛島診療所に常駐医師が不在となったことから、4月～10月まで週1回の割合で医師を派遣し診療支援を行っている。

(3) 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等

な し

【別紙】

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成24年度業務実績に関する評価基準

1 平成24年度業務の実績に関する評価の基本方針

平成24年度地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構年度計画について、その実施状況を調査・分析し、業務の実績について評価を行なう。

2 業務の実績に関する評価の方法

計画に掲げた項目ごとに行なう「項目別評価」と「業務実績全体の状況について行なう全体評価」の2つを併せて行なうものとする。

(1) 項目別評価 項目別評価シート

①業務の実施状況を幅広く把握し、可能な限り客観的な評価の実施に努める。

- ・業務実績については、その数量だけでなく、その質についても考慮する
- ・業務実績に影響を及ぼした要因、予期せぬ事情の変化等についても考慮する

②判定基準として以下の5段階で評価し、原則としてその理由を付記する。

(判定基準)

「S」 : 計画を大幅に上回っている

「A」 : 計画を上回っている

「B」 : 計画に概ね合致している

「C」 : 計画をやや下回っている

「D」 : 計画を下回っており、大幅な改善が必要

(2) 全体評価

全体評価は、(1)の項目別評価の結果を踏まえ、全体的な計画の進行状況や達成について、記述式等により評価するものとする。

平成 24 年度実績に関する評価

(項目別評価シート)

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成24年度・年度計画	平成24年度・年度実績	評価の視点	自己評定	委員会評定及び意見等
1 診療計画及び診療に関する重点事項				
(1) 診療計画				
<p>平成24年度は新たな中期目標期間・中期計画期間の初年度であり、診療計画については、設立団体から指示された第2期中期目標及び病院機構が策定した第2期中期計画に基づき実施していくものとする。</p> <p>第1期中期計画期間における病院運営は、評価委員会等からも高い評価を得るなど順調な運営がなされてきた。今後も日本海総合病院においては地域の中核病院として急性期医療の充実に努めるとともに、日本海総合病院酒田医療センター（以下「酒田医療センター」という。）においては回復期医療の取組を進め、将来にわたり継続可能な経営を目指すための努力を続けながら、今年度においても地域医療の向上のために様々な取組を行うものとする。</p> <p>施設整備については、酒田医療センターにおいて今年度中に増築・改修を完成させ回復期リハビリテーションの充実、通所リハビリテーションへの取組など地域に求められている医療環境の整備を実行し、地域の医療機能の向上を着実に推進するものとする。</p>	<p>日本海総合病院では地域の中核病院として急性期医療の充実に努め、日本海総合病院酒田医療センター（以下「酒田医療センター」という。）では回復期医療への取組を行った。</p> <p>また、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、地域医療向上のために後述のような取組を行った。</p>			
①日本海総合病院の体制				
<p>日本海総合病院の機能</p> <p>規模：646床 診療科：25科（内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科）併設診療機能：救命救急センター、屋上ヘリポート設置 特殊診療機能：ICU（集中治療室）、HCU（準集中治療室）、未熟児室、感染症病床、放射線治療、外来がん化学療法、セカンドオピニオン外来、緩和ケア、人工透析（急性期）、人間ドック、地域医療室（地域連携、在宅療養支援など） その他：病院間移動用ワゴン車、院内保育所</p>	<p>日本海総合病院の機能</p> <p>規模：646床 診療科：25科（内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科）併設診療機能：救命救急センター、屋上ヘリポート設置 特殊診療機能：ICU（集中治療室）、HCU（準集中治療室）、未熟児室、感染症病床、放射線治療、外来がん化学療法、セカンドオピニオン外来、緩和ケア、人工透析、地域医療室（地域連携、在宅療養支援など） その他：病院間移動用ワゴン車、院内保育所</p>	<p>◇急性期医療を提供する、地域の中核病院としての役割を果たしたか。</p>	<p>A ▽年間6,000件を超える手術の実施、平均在院日数11.7日、紹介率61.5%、逆紹介率が45.2%であることなど、急性期医療を担う地域の中核病院としての役割を果たしている。</p>	<p>S 手術件数が年間6,000件を超え、逆紹介率も45.2%と他の病院に比べ非常に高く、地域連携も活発に行われていることから、急性期医療を担う地域の中核病院として高く評価する。</p>
②酒田医療センターの体制				
<p>平成24年度は、酒田医療センターの増築・改修工事が完成する年度であり、統合再編で掲げた施設整備が完了することとなる。</p> <p>この施設整備により、地域課題であった回復期リハビリテーション、通所リハビリテーションについても年度中に取組が開始されることになる。なお、現在の東棟の改築と（仮称）回復期リハビリテーション棟の運用が開始するまでは、現在の西棟については、暫定的に療養病棟として活用し、その後解体を行うものとする。</p> <p>酒田医療センターの機能</p> <p>規模：114床 診療科：2科（内科、リハビリテーション科） 特殊診療機能：地域医療室（地域連携・在宅療養支援など） その他：病院間移動用ワゴン車</p>	<p>酒田医療センターの増築・改修工事が竣工する予定であったが、東日本大震災の被災地復興事業の影響を受けて、工期を2ヶ月延長し平成25年5月31日とした。</p> <p>退院後も機能回復目的のリハビリテーションが必要な患者がいることから、平成24年10月より外来でのリハビリテーションを開始した。このため、通所リハビリテーションについては、平成25年度から実施することとした。</p> <p>酒田医療センターの機能</p> <p>規模：114床 診療科：2科（内科、リハビリテーション科） 特殊診療機能：地域医療室（地域連携・在宅療養支援など） その他：病院間移動用ワゴン車</p>	<p>◇回復期リハビリテーション及び通所リハビリテーションに取り組むことができたか。</p>	<p>A ▽年度当初から、回復期リハビリテーションに取り組むことができた。退院後も機能回復目的のリハビリテーションを必要とする患者のため、計画にはなかった外来リハビリテーションを、通所リハビリテーションに優先して取り組んだ。</p>	<p>A 自己評定のとおり</p>

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成24年度・年度計画	平成24年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定		判定	
(2) 診療に関する重点事項						
①診療体制の整備						
第2期中期計画期間においても、医療需要の質的・量的変化や新たな医療課題に適切に対応するため、今年度についても、次のとおり診療部門の充実及び見直しを行う。	医療需要の質的・量的変化や新たな医療課題に適切に対応するため、平成24年度は、次のとおり診療部門の充実及び見直しを行った。					
a) 救急医療						
・救命救急センターにおける専門医の育成等、その充実について検討を行う。	○救命救急センターの機能の充実を図るため、専門医育成等の検討を行った。	◇救命専門医の育成を検討したか。	B	▽専門医認定を得るための研修体制等について検討を行った。	B	自己評価のとおり
・酒田地区広域行政組合の酒田救急ワークステーションとの連携強化を図り、将来、ドクターカーの配備の検討のため、共同して訓練等を行う。	○酒田地区広域行政組合の「酒田救急ワークステーション」との連携強化を図り、当該組合の要請によって、医師及び看護師が救急車に同乗・出動した。 ・平成24年度の出動実績は、3件であった。	◇ドクターカー配備を検討するため、酒田救急ワークステーションと訓練を行ったか。	A	▽3件の要請があり、医師及び看護師が救急車に同乗・出動した。	A	自己評価のとおり
・平成24年12月頃に運航開始予定の山形県ドクターヘリの受け入れ態勢等の整備を図る。	○平成24年11月に運航開始した「山形県ドクターヘリ」の受け入れ態勢の整備を行った。	◇「山形県ドクターヘリ」の受け入れ態勢の整備を行ったか。	A	▽山形県ドクターヘリの運航開始前に共同訓練を行い、患者搬送手順等の確認を行った。	A	自己評価のとおり
・日本海総合病院において酒田市の財政支援のもと、酒田地区医師会等の医師の協力による平日夜間の成人・小児の救急外来に対する診療支援の救急診療体制の維持、継続を図る。	○酒田地区医師会の協力により、平日夜間救急外来（小児を含む。）において、継続して診療支援が行われた。 【H24実績】救命救急センター受診状況 延べ患者数 23,979名 うち酒田地区医師会による診療支援 小児延べ患者数 743名 成人延べ患者数 1,715名 【H23実績】救命救急センター受診状況 延べ患者数 23,856名 うち酒田地区医師会による診療支援 小児延べ患者数 830名 成人延べ患者数 1,914名	◇酒田地区医師会の協力により、継続して平日夜間救急外来において診療支援が行われ、救急医療の充実を図ることができたか。	S	▽酒田地区医師会との協力体制により、役割分担することで、日本海総合病院の医師は重い症状の患者対応に専念することができ、救急医療の充実を図ることができた。	S	自己評価のとおり
b) がん医療						
・地域がん診療連携拠点病院としての機能充実	○看護師1名に「相談支援センター相談員基礎研修(3)」を受講させ、がん相談員を1名増の4名体制とする等、がん相談支援体制の充実を図った。 【H24実績】がん相談件数 818件 【H23実績】がん相談件数 934件	◇地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実が図られたか。	S	▽がん相談機能の充実、PET/CTの稼働によるがん診断機能の充実を図った。その他に、調査・研究分野では各種がん登録の実施、地域住民への啓発活動として専門家による講演会を開催するなど、拠点病院の機能を十分に発揮することができた。	S	自己評価のとおり
・PET-CTの運用開始(平成24年6月中)によるがん治療の強化	○平成24年6月にPET/CTを稼働させた。 【H24実績】検査件数 442件	◇平成24年6月からPET/CTを稼働させたか。 ◇稼働状況は、順調であったか。	B	▽計画通りにPET/CTを稼働させた。 ▽1日あたり検査件数が約2.2人であり、順調な稼働状況とはいえなかった。	A	最新の高度医療機器については、導入から十分な稼働率までには時間を要するため、先駆的に稼働したことについて評価するもの。
・手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた治療の実施	○手術、放射線療法及び化学療法を、効果的に組み合わせて治療を実施した。 【H24実績】手術件数 1,123件 放射線療法 7,793件 外来化学療法 3,092件 【H23実績】手術件数 1,065件 放射線療法 9,513件 外来化学療法 3,896件	◇手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた治療が実施されたか。	A	▽患者の状態にあった最適ながん治療を行った。	A	自己評価のとおり
・緩和ケア医療の充実	○緩和ケア医療の充実 【H24実績】病棟回診延べ患者数 367名 緩和ケア外来患者数 105名 【H23実績】病棟回診延べ患者数 383名 緩和ケア外来患者数 100名	◇緩和ケア医療の充実がなされているか。	A	▽認定看護師を配置し、緩和ケアチームで積極的に患者に関わった。人員体制及びケア提供体制の充実を図り、患者の身体的又は精神的苦痛の緩和に努め、QOLを考慮した治療とケアを行った。	A	自己評価のとおり
・セカンドオピニオン外来の充実	○セカンドオピニオン外来の充実 【H24実績】実施件数 4件(がん3件) 【H23実績】実施件数 2件(がん2件)	◇セカンドオピニオン外来の充実がなされているか。	A	▽専門の医師と看護師が懇切丁寧な説明と相談にあたった。	A	自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成24年度・年度計画	平成24年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定		判定	
・院内がん登録機能、相談支援体制の充実	○地域がん診療連携拠点病院として、次のとおりがん登録を行った。 【H24実績】院内がん登録 1,684件 地域がん登録 1,653件 【H23実績】院内がん登録 1,716件 地域がん登録 1,691件 (再掲) ○看護師1名に「相談支援センター相談員基礎研修(3)」を受講させ、がん相談員を1名増の4名体制とする等、がん相談支援体制の充実を図った。 【H24実績】がん相談件数 818件 【H23実績】がん相談件数 934件	◇院内がん登録機能、相談支援体制の充実がなされているか。	A	「院内がん登録」及び「地域がん登録」を行っている。また、がん相談機能については、資格のある相談員を4名体制とし充実を図った。	A	自己評価のとおり
c) 脳卒中・急性心筋梗塞						
・救命救急センターと関係する各診療科、リハビリテーション部門との連携強化を図り、救命率等の向上に寄与する。	○救命救急センターと関係する各診療科、リハビリテーション部門との連携強化を図り、救命率等の向上に努めた。	◇脳卒中・急性心筋梗塞において、各診療科又はリハビリテーション部門が連携して治療することができたか。	A	▽急性期医療の充実により、速やかに薬物治療又はカテーテル治療などの処置を施すことで、早期の社会復帰に向けたリハビリテーションに取り組むことができた。	A	自己評価のとおり
・CT、MRI検査の24時間対応の継続	○専門的医療やCT、MRI検査の24時間対応 【H24実績】脳梗塞、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳内出血で実施した件数 CT 1,015件 MRI 819件 【H23実績】脳梗塞、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳内出血で実施した件数 CT 1,060件 MRI 997件 【H24実績】心筋梗塞、狭心症で実施した件数 CT 255件 MRI 40件 【H23実績】心筋梗塞、狭心症で実施した件数 CT 220件 MRI 32件	◇脳卒中・急性心筋梗塞に対する専門的医療やCT・MRI検査の24時間対応は、継続して実施されているか。	A	▽継続してCT・MRI検査の24時間対応を行い、緊急治療や手術など適切に対応することができた。	A	自己評価のとおり
・日本海総合病院における急性期リハビリテーションの充実及び酒田医療センターにおける回復期リハビリテーションとの連携強化を図る。	○日本海総合病院では急性期リハビリテーションを、酒田医療センターでは回復期リハビリテーションの充実を図った。 【H24実績】心大血管疾患リハビリテーション料1 日本海総合病院：実患者数 422名 回数(単位数) 9,196回 【H23実績】心大血管疾患リハビリテーション料1 日本海総合病院：実患者数 325名 回数(単位数) 3,341回 【H24実績】脳血管疾患リハビリテーション料1 日本海総合病院：実患者数 1,303名 回数(単位数) 44,118回 酒田医療センター：実患者数 243名 回数(単位数) 40,963回 【H23実績】脳血管疾患リハビリテーション料1 日本海総合病院：実患者数 1,157名 回数(単位数) 39,437回 酒田医療センター：実患者数 206名 回数(単位数) 23,661回	◇日本海総合病院では急性期リハビリテーションを、酒田医療センターでは回復期リハビリテーションの充実が図られたか。	A	▽日本海総合病院では、脳血管疾患リハビリテーション及び心大血管疾患リハビリテーションの患者数、回数がともに、昨年度と比較して増加した。 ▽酒田医療センターでは、脳血管疾患リハビリテーションの患者数、回数が昨年度と比較して大幅に増加した。	A	自己評価のとおり
d) 糖尿病(日本海総合病院)						
・チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の集中的治療の充実	○チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の治療を行った。 【H24実績】教育入院患者数 83名 【H23実績】教育入院患者数 79名 【H24実績】個別栄養指導件数 575件 (入院 239件 外来 336件) 【H23実績】個別栄養指導件数 334件 (入院 191件 外来 143件)	◇チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた糖尿病治療が行われたか。	A	▽それぞれの職種が、それぞれの分野から患者にアプローチし、血糖値コントロールのための自己注射の必要性、糖尿病による合併症併発の危険性、予防などについて患者の理解を得て、退院させることができた。	A	自己評価のとおり
e) 回復期リハビリテーション(酒田医療センター)						
・回復期リハビリテーション機能の充実を図る。	○平成24年2月1日から回復期リハビリテーション病棟を稼働させ、平成24年4月1日から回復期リハビリテーション入院基本料3の算定を開始した。また、平成24年10月から外来でリハビリテーションを開始した。 【H24実績】リハビリテーション科の延べ患者数 入院 11,366名 外来 120名	◇回復期リハビリテーション機能の充実がなされたか。	A	▽リハビリテーション科のスタッフの増員を行い、回復期リハビリテーションの充実を図った。	A	自己評価のとおり
・通所リハビリテーションを平成24年度中に実施する。	【H24実績】リハビリテーション科の延べ患者数 入院 11,366名 外来 120名	◇通所リハビリテーションを開始することができたか。	B	▽退院後も機能回復目的のリハビリテーションを必要とする患者のため、計画にはなかった外来リハビリテーションを、通所リハビリテーションに優先して取り組んだ。	B	自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成24年度・年度計画	平成24年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定		判定	
f) 在宅医療支援及び療養支援						
・地域の介護機関・福祉機関・医療機関との連携を強化するための窓口・相談機能の充実	○日本海総合病院の医事課医療連携室（3名体制）を事務室から移転させ、地域医療室と同室にすることで、業務の効率化と相談機能の充実を図った。 ○酒田医療センターは3名体制で、退院調整及び入院前面談等を実施した。 【H24実績】退院調整 日本海総合病院 合計1,906件 酒田医療センター 合計289件 【H23実績】退院調整 日本海総合病院 合計1,899件 酒田医療センター 合計229件 【H24実績】酒田医療センター： 入院前面談件数 397件 うち入院患者数 377件 【H23実績】酒田医療センター： 入院前面談件数 374件 うち入院患者数 365件	◇他の医療機関及び地域の介護・福祉機関との連携強化のため、窓口・相談機能の充実がなされたか。	A	▽相談窓口機能の改善を行ったことで、業務の効率化が進み、シームレスなサービス提供が行われた。	A	自己評価のとおり
・かかりつけ医と連携した急性増悪に対する入院受入や定期的に必要な検査、処置の実施などの在宅患者や介護・福祉機関の患者に対する医療支援	○在宅や介護・福祉施設で医療支援を必要としている方に対して、他の医療機関及び介護・福祉機関と連携して医療支援を行った。	◇在宅や介護・福祉施設で医療支援を必要としている方に対して、他の医療機関及び介護・福祉機関と連携して医療支援を行ったか。	A	▽他の医療機関及び介護・福祉機関と連携強化を図るとともに、「ちょうかいネット」の利用拡大にも取り組んできたことから、的確な医療支援を行うことができた。	A	自己評価のとおり
・社団法人酒田地区医師会十全堂訪問看護ステーション スワンの酒田医療センター内への設置による地域連携の強化	○酒田地区医師会十全堂訪問看護ステーション「スワン」が、酒田医療センターに継続して設置されたことにより、在宅医療との連携強化を図った。	◇訪問看護ステーション「スワン」が、酒田医療センターに継続して設置され、在宅医療との連携強化が図られたか。	A	▽在宅医療へのスムーズな移行が行われている。	A	自己評価のとおり
g) その他						
・2病院間を運行している患者移動用ワゴン車「げんき号」については、今年度も継続して運行する。ただし、運行回数等は1日当たり7往復に減少し、運行経路等について再検討をする。	○患者移動用ワゴン車「げんき号」については、運行経路の変更にとともに、運行回数を1日当たり定期便7往復に減便しながらも利便性の保持のため、月平均約5往復の臨時便を運行した。	◇「げんき号」が継続運行され、患者の利便性は確保されたか。	A	▽利用実績をふまえて定期便を減便して運行した。必要に応じて臨時便を運行し、患者の利便性を確保した。	A	自己評価のとおり
②災害時や健康危機における医療協力						
・災害時には、災害拠点病院として患者を受け入れるとともに、県の要請に基づき、又は自ら必要と認めたとときは、DMA T（災害派遣災害チーム）等、医療スタッフを現地に派遣して医療救護活動を実施する。	○平成24年12月7日に三陸沖を震源とする地震が発生し、宮城県太平洋沿岸に津波警報が発表された。山形県からDMA Tの待機要請があったが、2時間後に警報が解除されたため、DMA Tは出動しなかった。	◇要請に応じて、いつでも出動できる態勢であったか。	A	▽山形県からDMA Tの待機要請があり、速やかに出動態勢を整えた。	A	自己評価のとおり
・災害発生時に備え、地域の医療機関、医師会、自治体等が参加する災害医療訓練に年1回以上参加するとともに、地域の医療従事者を対象とした災害医療研修を実施する。	○山形県地域災害医療コーディネーターに、日本海総合病院の2名の医師が委嘱された。（期間：平成25年3月27日～平成27年3月26日の2年間） 【H24実績】災害医療訓練及び研修の状況 災害医療訓練：12回、延べ42名参加 災害医療研修：6回、延べ729名参加 【H23実績】災害医療訓練及び研修の状況 災害医療訓練：5回、延べ75名参加 災害医療研修：4回、延べ19名参加	◇他の関係機関との災害医療訓練又は災害医療研修を実施若しくは参加したか。	S	▽他の機関が主催の訓練に参加するだけでなく、災害拠点病院の責務を果たすため、この地域が被災した場合を想定しての訓練も独自に実施した。	S	自己評価のとおり
・災害発生時に備え、小型非常用発電装置、医薬品、診療材料、飲料水などの配備・備蓄について、今年度は、小型非常用発電装置の病棟配備について配置箇所等を検討、実施し、医薬品、診療材料、飲料水などの備蓄については、備蓄場所・備蓄施設の設置等について検討する。	○災害発生時に備え、衛星携帯電話ほか9種類の災害医療対策用機器等を整備及び備蓄した。	◇災害医療対策用機器等の整備及び備蓄を行ったか。	A	▽国の補正予算を活用し、災害医療対策用機器等の整備を行った。	A	自己評価のとおり
・水害、津波災害に備えて、非常用発電装置の浸水防止工事について設計等を実施する。	○非常用発電装置の浸水防止工事については、山形県が公表した「津波浸水域予測図」及び酒田市が作成した「津波ハザードマップ」を参考に、その必要性について検討した結果、津波の影響は極めて少ないと判断したため見送ることとした。	◇水害、津波災害に備えて、非常用発電装置の浸水防止工事について設計等を実施したか。	B	▽工事の必要性について検討を行い、浸水防止工事は見送ることとした。	A	酒田市で発表した津波浸水予測図を参考に検討した結果、当地区は浸水に当たらないことから工事の必要性がないと判断しているものであり、浸水防止工事を行わないことは十分評価できる。
・非常用発電機の燃料や医薬品等の優先納入体制の整備を図る。	○災害時においても、優先納入できることを条件に加え、物品購入契約を締結した。	◇非常用発電機の燃料や医薬品等の優先納入体制の整備を図ったか。	A	▽災害時においても、病院機能が維持されるよう物品調達面での体制整備を行った。	A	自己評価のとおり
・日本海総合病院においては、新型インフルエンザなどの新たな感染症など地域の健康危機事象に山形県と連携して所要の責務を担うとともに、その受け入れ等の体制を整備する。	○新たな感染症が発生した場合には、他の関係機関と連携して対応するとともに、感染対策委員会を中心に情報収集を行い、患者の受け入れを行っていく。	◇新たな感染症などが発生した場合に、関係機関と連携して患者を受け入れることができるか。	A	▽新型インフルエンザについては、既にマニュアルが整備されている。 ▽感染症室の個室化などの改修を行い、患者受け入れ環境の整備を行った。	A	自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成24年度・年度計画	平成24年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定		判定	
③政策医療の実施						
・がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・小児医療・周産期医療などの高度専門医療についても、「山形県保健医療計画」等と整合性を図りながら、民間の医療機関では導入が困難な技術、先進的な技術を先駆けて導入するなど、地域の中核的医療機関としての役割を果たしていく。	○日本海総合病院において、ハイブリッド手術室の整備について検討を行った。	◇地域の中核的医療機関としての役割を果たすため、先進的な技術の導入を図ったか。	A	▽国の定める先進医療の導入を視野に入れ、ハイブリッド手術室の整備について検討した。	A	自己評価のとおり
・日本海総合病院においては、第二種感染症指定医療機関として、所要の責務を担うとともに、速やかな感染症患者の受け入れ体制を整備する。	○第二種感染症指定医療機関である日本海総合病院では、感染症患者の受け入れ体制を検討し、感染症病床2床分の改装移転を行った。	◇第二種感染症指定医療機関としての役割を果たすため、感染症患者の受け入れ環境の整備を図ったか。	A	▽1室2床の感染症室を、個室化のため移転し、環境の整備を行った。	A	自己評価のとおり
・日本海総合病院においては、認知症疾患医療センターを運営し、認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して実施していく。	○日本海総合病院において「認知症疾患医療センター」を運営し、認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して実施した。 【H24実績】新規相談件数 789件 継続相談件数 286件 【H23実績】新規相談件数 645件 継続相談件数 300件	◇「認知症疾患医療センター」を運営し、十分に役割を果たしているか。	A	▽庄内二次医療圏で唯一の「認知症疾患医療センター」であり、前年度と比較して新規相談件数が増加している。認知症の早期発見、早期治療に努めている。	A	自己評価のとおり
④医療スタッフの確保及び資質向上						
a) 医療人材の確保・育成						
・高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、大学等関係機関との連携の強化や教育研修の充実により、優秀な医師の確保、育成に努める。	○高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、大学等関係機関との連携の強化を図った。	◇高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、大学等関係機関との連携の強化が図られたか。	A	▽山形大学及び東北大学との連携が図られている。	A	自己評価のとおり
・臨床研修医及びレジデント（専門分野の研修医をいう。）の受け入れ拡大に努めるため、教育研修体制の充実を図るとともにレジデントハウスの建築等について検討を行う。	○臨床研修医、レジデント及びブスチューデントドクターの受け入れ拡大に努めた。 【H24実績】臨床研修医 13名 レジデント 16名 ブスチューデントドクター 16名 臨床医学修練生 1名 地域医療実習生 4名 【H23実績】臨床研修医 14名 レジデント 12名 ブスチューデントドクター 4名 臨床医学修練生 1名 地域医療実習生 2名 ○教育研修体制の充実を図るため、レジデントハウスの建築について検討を行い、平成25年2月に着工した。	◇臨床研修医及びレジデントの受け入れ拡大に努めたか。また、山形大学及び東北大学から卒前医学生を受け入れ、医師の育成に協力したか。 ◇教育研修体制の充実を図るため、レジデントハウスの建築等について検討を行ったか。	S	▽臨床研修医及びレジデントの受け入れだけでなく、山形大学との協定に基づいてブスチューデントドクターを、東北大学から臨床医学修練及び地域医療実習の医学生を受け入れ、医師育成の一翼を担った。 ▽教育研修環境の充実を図るため、レジデントハウスの建設に着工した。	S	自己評価のとおり
・より質の高い看護を提供するため、計画的に認定看護師・専門看護師の資格取得を促進する。	○より質の高い看護を提供するため、院外講師を招聘して5回の研修会を開催し、延べ179名が参加した。 【H23実績】5回、延べ195名参加 ○緩和ケア認定看護師、感染管理認定看護師、脳卒中リハビリテーション認定看護師及び慢性心不全看護認定看護師の資格を新たに取得するため、4名の職員を研修に派遣した。 【H23実績】1名（救急看護認定看護師取得）	◇より質の高い看護を提供するため、研修会等を通じて専門知識の習得及び技能の向上を図ったか。 ◇認定看護師等の資格取得の推進を図ったか。	A	▽院外講師を招聘し、研修会を開催した。 ▽クリニカルラダーに基づいて、体系的な研修を継続して行っている。 ▽認定看護師の養成を図った。	A	自己評価のとおり
・薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の技術職について、研修等を充実し、専門技能の向上を図る。	○薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の技術職について、研修等を充実し、専門技能の向上を図った。	◇医療技術職について、研修等を通じて専門技能の向上を図ったか。	A	▽学会、学術研究会、研修会等に参加し、知識の習得と専門技能の向上を図った。	A	自己評価のとおり
・看護師や薬剤師、技師等が、がんや心疾患、糖尿病等に対するチーム医療の実施において、医師とともにメディカルスタッフの一員として、その役割を果たせるよう必要に応じ体制整備を進める。	○緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、人工呼吸サポートチーム、感染対策チーム及び褥瘡対策チームで、多職種による医療の提供を行った。	◇チーム医療を提供することができたか。	A	▽チーム医療を提供し、患者の評価を多職種で行い、医療の質の向上に努めた。	A	自己評価のとおり
・医師の負担の軽減により、医師確保と定着化を促進するため、短時間正職員制度など多様な勤務形態の導入を検討するとともに、医師事務作業補助者（以下「医療クラーク」という。）など医師を支援する職種の活用を推進する。	○医師確保と定着化を図るため、短時間正職員制度の導入を検討した。 ○各病棟などに医療クラークを配置し、継続して医師の負担軽減を図った。 【H24実績】医療クラークの配置数 59名 【H23実績】医療クラークの配置数 60名	◇医師確保と定着化のため多様な勤務形態の検討を行ったか。また、医師の負担軽減を図ることができたか。	S	▽医師短時間正職員制度に関する要綱を定めた。 ▽医師の負担軽減を図るため、継続して医療クラークの配置を行った。	S	自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成24年度・年度計画	平成24年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定		判定	
b) 事務職員の確保と専門性の向上						
・病院経営機能の強化を図るため、事務職員について、プロパー職員の採用等を段階的に進め、研修の充実等による専門的知識の習得を図る。	○他病院の事務職員と合同活動発表会を開催し、事務職員の知識の習得と専門性の向上を図った。	◇プロパー職員について、研修等を通じて専門知識の習得を図ったか。	A	▽職員研修規程に基づき職員研修計画を定め、事務職員の資質の向上を図った。	A	自己評価のとおり
・診療情報管理士など専門職種の配置、取得に努めるとともに委託職員の資質向上を図る。	○プロパー職員として診療情報管理士1名を採用し、既に資格を取得している臨時職員と合わせて8名を確保し、専門性の向上を図った。	◇診療情報管理士を配置し、専門性の向上を図ったか。	A	▽「がん登録」分野において、診療情報管理士の専門性を活用し、さらに精度の向上を図った。	A	自己評価のとおり
⑤医療サービスの効果的な提供						
a) 地域連携の推進						
・庄内地域における中核的な医療機関としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担と連携を強化し、地域医療機関との紹介率・逆紹介率の向上や地域連携クリティカルパスの整備、普及等に取り組む。	○庄内地域における中核的な医療機関としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担と連携の強化に取り組んだ。 【H24実績】日本海総合病院：紹介率 61.5% 逆紹介率 45.2% 【H23実績】日本海総合病院：紹介率 61.8% 逆紹介率 41.8% ※「地域医療支援病院」の算出方法による。	◇地域の中核的な医療機関としての役割を果たし、他の医療機関との役割分担と連携を強化し、紹介率・逆紹介率の向上に取り組んだか。	S	▽前年度に引き続き、地域医療支援病院の要件である紹介率・逆紹介率を達成することができた。 ▽紹介率は0.3ポイント減少したものの、逆紹介率は3.4ポイント増加し、地域の医療提供体制における役割分担と連携の強化が図られている。	S	自己評価のとおり
・地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の積極的な提供や、退院時カンファレンスの取組の強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供ができるように努める。	・地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の積極的な提供や、退院時カンファレンスの取組の強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスを提供した。	◇地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスを提供したか。	A	▽介護・福祉機関との連携を強化するとともに、充実した体制で積極的な退院支援を行うことにより、医療から介護・福祉へとシームレスなサービスを提供することができた。	A	自己評価のとおり
b) ITネットワークの活用（「ちょうかいネット」の活用推進						
・平成23年度からインターネットを利用して日本海総合病院の電子カルテ情報（診療録、処方、注射、検査、画像、サマリーなど）を地域内の病院、一般診療所、歯科診療所、薬局、介護・福祉施設などで閲覧できるようにし、また、ファイル化された診療情報を病院や診療所等の相互間で送受信できるシステム（「ちょうかいネット」）について、利用する医療機関等の拡大を図る。	○平成23年4月から稼働した「ちょうかいネット」について、利用する医療機関等の拡大を図った。 ・平成25年3月31日現在の状況 利用施設数 合計 92施設 登録患者数 合計 6,669名 ・平成24年3月31日現在の状況 利用施設数 合計 59施設 登録患者数 合計 2,386名	◇「ちょうかいネット」の利用拡大が図られたか。	A	▽利用施設数及び登録患者数ともに増加しており、利用拡大が図られた。	S	全国的にも先駆的な取り組みであり、利用施設数や登録患者などに伴う紹介率や逆紹介率の高さなど結果も出ている。特に近隣の鶴岡市の医療機関の加入も増加しており、庄内地域全体に拡大していることから、高く評価する。
・がん、脳卒中、心筋梗塞などの地域連携クリティカルパスについても「ちょうかいネット」を活用した運用を行なう。	○「5大がん」及び「大腿骨頸部骨折」の地域連携クリティカルパスについても、「ちょうかいネット」を活用した運用を行なった。	◇地域連携クリティカルパスを、「ちょうかいネット」で運用したか。	A	▽「ちょうかいネット」で地域連携クリティカルパスを運用し、紹介先医療機関との情報の共有が図られた。	A	自己評価のとおり
c) 地域連携クリティカルパスの活用						
・5大がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病などについて効果的な医療を提供し、患者負担の軽減にも寄与するため、電子カルテをベースにしたクリティカルパスの作成及び適用を進める。	○「5大がん」及び「大腿骨頸部骨折」の地域連携クリティカルパスについて、継続して積極的に活用した。 ○平成24年12月から、新たに「脳卒中」の地域連携クリティカルパスを稼働させた。 【H24実績】地域連携クリティカルパス適用件数 肺がん：0件 大腸がん：13件 肝がん：0件 乳がん：24件 胃がん：9件 CHS：105件 脳卒中：92件 【H23実績】地域連携クリティカルパス適用件数 肺がん：4件 大腸がん：16件 肝がん：0件 乳がん：7件 胃がん：14件 CHS：111件	◇電子カルテをベースとしたクリティカルパスの作成及び適用を促進したか。	A	▽電子カルテをベースにクリティカルパスを作成することで、「ちょうかいネット」での運用を可能にしている。 ▽「5大がん」及び「大腿骨頸部骨折」に加えて、「脳卒中」パスを新規に稼働させた。	A	自己評価のとおり
⑥庄内地域における医療水準の向上						
・地域の中核的な医療機関として、山形大学、東北大学、県立保健医療大学、県立病院などとの人材交流や研修を通して質の高い医療従事者の育成を推進し、庄内地域における医療水準の向上を進める。	○地域の中核的な医療機関として、山形大学、東北大学、県立保健医療大学、県立病院などとの人材交流や研修を通して質の高い医療従事者の育成を推進した。	◇医療水準向上のため、大学等や県立病院などとの人材交流や研修を実施したか。	A	▽山形大学及び東北大学を中心にして、人材交流を行い医療水準の向上に努めている。	A	自己評価のとおり
・平成23年度から日本海総合病院内に開設された山形大学医学部先端分子疫学研究所酒田分室の研究体制を支援するため調査活動に対する協力、講演会等の開催支援を継続するとともに、同大学医学部との共同研究等の推進に努める。	○平成23年度から日本海総合病院内に開設されている、山形大学医学部先端分子疫学研究所酒田分室の調査活動に協力した。	◇山形大学医学部先端分子疫学研究所の研究活動に協力したか。	A	▽日本海総合病院に研究所の分室を設置するとともに、市民公開講座の開催支援などの協力を行った。	A	自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成24年度・年度計画	平成24年度・年度実績	評価の視点	自己評定		委員会評定及び意見等	
			判定		判定	
・酒田市立看護専門学校の実習施設として継続して協力するとともに、同校の教員部門を当法人が担うことから、その看護教員の計画的な養成を図る。	○看護教員の計画的育成のため、看護師2名を教員養成研修に派遣した。	◇看護教員の計画的な養成を図ったか。	A	▽看護教員養成のため研修に派遣した。	A	自己評定のとおり
⑦住民の意識の啓発						
・地域住民を対象としたセミナー、病院広報紙などの発行を積極的に行い、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努める。	○地域住民を対象としたセミナー、病院広報紙などの発行を積極的に行い、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努めた。 ・患者、地域住民向けの広報紙「あきほ」を年間4回発行し、病院機構の様々な情報提供に努めた。 ・地域がん診療連携拠点病院として、地域住民を対象に講演会等を開催し、健康に対する意識の啓発・情報提供を行った。 【H24実績】「緩和ケア講演会」 H24.7.14開催 ホテルサンルート酒田 170名参加 ・山形大学医学部先端分子疫学研究所とともに、市民公開講座を開催した。 【H24実績】「知って得する!?生活習慣病の話」 H25.1.19開催 日本海総合病院講堂 111名参加	◇地域住民を対象としたセミナー、広報などを行ったか。	A	▽地域がん診療連携拠点病院として、毎年、地域住民を対象として公開講座を実施してきた。平成24年度は院外講師による緩和ケア講演会を行い、啓発活動を行った。 ▽広報紙「あきほ」を年4回発行し、病院からの情報発信を行った。	A	自己評定のとおり
・他の機関が行う地域の医療従事者や住民に対するセミナー等への講師派遣についても積極的に行う。	・他の機関が行うセミナー等への講師派遣について協力した。	◇他の機関が行うセミナー等へ講師を派遣したか。	A	▽要請に応じて、講師等を派遣した。	A	自己評定のとおり
(3) 患者・住民サービスの一層の向上						
・日本海総合病院においては、外来診療の待ち時間調査を実施し、実態や患者ニーズを把握しながら、患者の利便性の向上に努める。	○日本海総合病院において、外来診療の待ち時間調査を実施し、実態把握を行った。今後、待ち時間短縮に向けて改善策の検討を行う。	◇外来待ち時間調査を実施したか。 ◇実態把握を行い、患者の利便性の向上に努めたか。	B	▽業者に委託して、待ち時間調査を実施した。 ▽患者の利便性向上を図るため、待ち時間短縮に向けての改善策は、平成25年度の検討課題とした。	B	自己評定のとおり
・患者、利用者の意見・要望等を聞く投書箱を今後も設置し、一層のサービス向上と業務改善の取組を進める。	○「患者の声」の院内掲示及び病院ボランティアとの意見交換を行い、患者・住民の目線に立ったサービスの向上に取り組んだ。	◇意見交換の場を設け、患者・住民の目線に立ったサービスの向上に取り組んだか。	A	▽病院ボランティアとの意見交換を行った。 ▽1つ1つの「患者の声」に回答し、すぐに改善できるものは速やかに対応した。	A	自己評定のとおり
・ホームページの充実による病院情報の発信力の強化を図る。	○病院機構及び2病院のホームページにより、病院情報の提供を行った。	◇ホームページの充実による病院情報の発信力の強化を図ったか。	A	▽病院機構及び2病院のホームページに加え、看護部のサイト、産婦人科のサイト、医学生向けのサイトにより様々な情報の発信を行った。	A	自己評定のとおり
・日本海総合病院においては、既存棟である外来棟や東西病棟を中心に、外来待合室、診察室、病室、デイルーム、廊下、トイレ、洗面、その他の設備などの改修・補修に取り組み、快適な院内環境の整備に努める。(平成24年度は外来棟、3階西病棟、5階東病棟、5階西病棟を中心に改修・補修に取り組みを予定)	○日本海総合病院において、設備などの改修・補修を行い院内環境の整備を図った。 【H24実績】整備内容等 感染症室：1室2床→1室1床へ2室整備 理学療法室及び廊下：床の張替え 外来診察室ドア：開き戸→引き戸 正面玄関：風除室の設置 5・6階病棟：病室カーテンの更新	◇日本海総合病院の既存棟において、院内環境整備のため改修・補修を行ったか。	A	▽日本海総合病院の環境整備のため、改修・補修を行った。	A	自己評定のとおり
・日本海総合病院においては、外来患者等の来院状況等を勘案し、患者用駐車場の拡張について検討、実施する。	○外来患者等の来院状況をふまえ、患者用駐車場の拡張について検討した結果、平成24年度においては拡張工事を見送ることとし、今後の課題とした。	◇日本海総合病院において、患者用駐車場の拡張について検討、実施したか。	B	▽患者用駐車場の利用状況をふまえて検討を行ったが、拡張工事は実施しなかった。	B	自己評定のとおり ただし、駐車場の拡張工事を実施する前に、外来患者の病診のすみ分けや、将来の人口減少も検討する必要がある。
・地域住民に対する医療セミナーの開催など、患者・住民の目線に立ったサービスの向上の取組を進める。	(再掲) ○地域住民を対象としたセミナー、病院広報紙などの発行を積極的に行い、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努めた。 ・患者、地域住民向けの広報紙「あきほ」を年間4回発行し、病院機構の様々な情報提供に努めた。 ・地域がん診療連携拠点病院として、地域住民を対象に講演会等を開催し、健康に対する意識の啓発・情報提供を行った。 【H24実績】「緩和ケア講演会」 H24.7.14開催 ホテルサンルート酒田 170名参加 ・山形大学医学部先端分子疫学研究所とともに、市民公開講座を開催した。 【H24実績】「知って得する!?生活習慣病の話」 H25.1.19開催 日本海総合病院講堂 111名参加	◇地域住民に対する医療セミナーの開催など、患者・住民の目線に立ったサービスの向上の取組を行ったか。	A	▽地域がん診療連携拠点病院として「緩和ケア講演会」を行った。 ▽山形大学医学部先端分子疫学研究所酒田疫学研究所とともに、市民公開講座を開催した。	A	自己評定のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成24年度・年度計画	平成24年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定		判定	
・日本海総合病院において平成20年度から実施した重症心身障がい児(者)短期入所事業については、在宅療養をされている重症心身障がい児(者)が家族の疾病等の理由により介護できない場合に日本海総合病院の空ベッドを利用して一時的に入所サービスの提供を行う事業であり、そのサービスの継続を図る。	○日本海総合病院において、平成20年度から継続して重症心身障がい児(者)短期入所事業を行った。 【H24実績】延べ利用者数 28名 【H23実績】延べ利用者数 30名	◇継続して重症心身障がい児(者)短期入所事業を行ったか。	A	▽庄内地方唯一の施設であり、障がい児(者)をもつ家族の負担軽減が図られるよう、継続して事業を行った。	A	自己評価のとおり
・酒田市からの委託事業である病児・病後児保育事業を日本海総合病院の院内保育所「あきほ保育園」において継続し、病児・病後児の「保育と看護」を医療隣接型で実施することにより、地域の子育て支援と児童の健康、安心の向上を図る。	○地域の子育て支援と児童の健康、安心の向上を図るため、日本海総合病院の院内保育所「あきほ保育園」において、酒田市からの受託事業として病児・病後児保育を実施した。 【H24実績】延べ利用者数 304名 【H23実績】延べ利用者数 94名	◇酒田市から受託して、病児・病後児保育事業を継続して実施したか。	A	▽酒田市から継続して事業を受託して実施した。	A	自己評価のとおり
(4) 法令等の遵守と情報公開の推進						
・法令等に基づき、医療従事者としての行動規範、倫理等について規則化し、所要の研修を行う。	○病院機構の医療人としての倫理綱領等を定めた。	◇病院機構の基本理念、医療従事者としての倫理綱領及び各病院の運営方針を定めたか。	A	▽基本理念、倫理綱領及び各病院の運営方針を定めた。	A	自己評価のとおり
・医療情報のセキュリティ対策の向上に努めるとともに職員、委託職員を含めた院内研修を実施する。	○医療情報のセキュリティ対策の向上のため、定期的に電子カルテへのアクセス監視を行った。 ○全職員及び委託職員を対象に、医療情報セキュリティ研修を行った。	◇医療情報のセキュリティ対策の向上に努め、職員及び委託職員を対象に院内研修を実施したか。	A	▽カルテの情報等個人情報の取扱い、及びコンピュータウィルスの対処について、企画情報係員が講師となり院内研修会を実施した。	A	自己評価のとおり
・インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ・レセプト等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて適切に対応する。	○インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行った。 【H24実績】診療情報提供申出件数 日本海総合病院 49件 酒田医療センター 7件 【H23実績】診療情報提供申出件数 日本海総合病院 32件 酒田医療センター 4件	◇医療情報の開示請求について、適切に対応したか。	A	▽県の取扱いに準じて、適切に対応した。	A	自己評価のとおり
(5) 医療安全対策の充実・強化						
・安全・安心な医療を提供するための安全管理体制を整備し、インシデントのレポート収集、分析とリスク回避の方策の周知を進めるため、年1回以上の院内研修会の開催や定期的な院内広報の発行など、患者安全管理体制の推進・強化に努める。	○継続して安全・安心な医療を提供に努め、啓発活動として研修会等を開催した。 【H24実績】医療安全研修 ①H24.7.10開催 日本海総合病院講堂 138名参加 ②H24.11.30開催 日本海総合病院講堂 131名参加	◇院内研修会を開催し、患者安全管理体制の推進・強化に努めたか。	A	▽全体研修会以外にも、看護部を中心とした研修会を開催した。	A	自己評価のとおり
・アクシデントが発生した場合は、迅速に対応するとともに、速やかに報告書を作成し、医療安全管理者に報告する。医療安全管理者は各部署の患者安全推進者と連携し、事故の分析を行い、適切な再発防止策を講じ、医療安全の向上に努める。	○医療安全管理者を中心に速やかな情報の収集・発信・共有を図り、医療安全対策の一層の向上に努めた。	◇医療安全管理者が主体となって、医療安全の向上に努めたか。	A	▽現場からの通報を受けて、セーフティマネージャーが速やかに状況把握、評価、医療安全管理者への報告を行った。 ▽医療安全対策委員会で事例検討を行い、原因分析、再発防止策の評価・検討、情報の共有化を図った。 ▽発生から3ヶ月後、医療安全対策委員会で再評価を行い、医療安全の向上に努めた。	A	自己評価のとおり
2 施設設備整備						
(1) 統合再編に係る施設整備						
酒田医療センターの増築・改修工事については、平成21年度に中期計画を変更し療養病床として整備を図るとともに、回復期リハビリテーション病棟、通所リハビリテーション施設も整備する計画とした。平成22年度に基本・実施設計を行い、増築・改修工事の発注を行い、平成23年度からは2年間の予定で増築、改修工事に着手を開始し、平成24年度末で全ての工事が完成する予定である。	酒田医療センターの増築・改修工事について、平成24年度末現在の工事進捗状況は次のとおりである。 A棟(東棟改修)：完成 B棟(病棟増築)：完成 エントランス棟：H25.5月完成	◇酒田医療センターの増築・改修工事が竣工したか。	B	▽震災復興の影響により、やむを得ず工期が2ヶ月延期された。しかし、酒田医療センターの運営には影響はなかった	A	エントランス棟の完成は若干遅れたが、増築・改修工事をしながら運営もやっていることから、十分評価できる。
(2) 高度医療機器の計画的な更新・整備						
・高度専門医療等の充実のため、平成24年度は以下のとおり高度医療機器の更新・整備を行う。 ・高度医療機器の更新・整備に当たっては、稼働率や収支の予測を十分に行った上で進めるものとする。	○高度専門医療等の充実のため、高度医療機器の更新・整備を行った。	◇高度専門医療等の充実のため、費用対効果も含めて検討を行い、計画的に機器の更新・整備が行われたか。	A	▽医療機器等選定委員会で、診療科からのヒアリングを経て機種等の選定を行い、計画的に更新・整備を行った。	A	自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成24年度・年度計画	平成24年度・年度実績	評価の視点	自己評定		委員会評定及び意見等	
			判定		判定	
3 患者数の見込みと収支計画						
平成24年度における患者数の見込みと予算、収支計画、資金計画については以下のとおりとする。	財務諸表のとおり。	◇経常収支比率100%以上を達成し、かつ、平成21年度における全国の黒字病院の平均値である人件費比率49.2%、材料費比率27.6%以下を達成することができたか。	S	▽経常収支比率104.7%、人件費比率47.7%、材料費比率23.1%を達成した。	S	自己評定のとおり
4 その他業務運営に関する事項						
(1) 就労環境の整備						
・日本海総合病院の院内保育所「あきほ保育園」については、24時間保育所の運営の継続と24時間保育の日数等の拡大を検討する。	院内保育所「あきほ保育園」では、職員の子育て支援を図るため、継続して酒田市の病児・病後児保育事業を受託し、さらに24時間保育の日数等の拡大を検討し、平成25年度から実施することとした。	◇「あきほ保育園」の24時間保育の日数拡大を検討したか。	S	▽24時間保育の日数拡大を検討し、規程の改正を行い、平成25年4月から実施することとした。	S	自己評定のとおり
・院内保育所「あきほ保育園」に併設して実施している病児・病後児保育事業（一部、酒田市からの委託事業）を継続し、職員の子育て支援の拡充を図る。		◇「あきほ保育園」において、職員の子育て支援を図るため、病児・病後児保育事業を実施したか。	A	▽職員が安心して働くことができるよう、継続して病児・病後児保育事業を実施した。	A	自己評定のとおり
(2) 酒田市立酒田看護専門学校への支援						
平成22年度から酒田市立看護学校として開校した「酒田看護専門学校」の実習施設として継続して協力するとともに、その教育部門を当法人が担っていることから、酒田市と連携し当機構の看護職員を対象に看護教員としての育成に努める。	(再掲) 看護教員の計画的育成のため、看護師2名を教員養成研修に派遣した。	◇看護教員の計画的な養成を図ったか。	A	▽看護教員養成のため研修に派遣した。	A	自己評定のとおり
(3) 人間ドック機能の見直し						
日本海総合病院において実施している人間ドックについては、日本海総合病院における急性期患者の増加により、CTやMRIなどの検査が大変込み合っているため、財団法人山形県結核成人病予防協会や診療所等との連携を図り、検査等の機能分担について検討し、地域の検診体制の強化・連携を図る。	○日本海総合病院の人間ドックの見直しを行い、公益財団法人やまがた健康推進機構や診療所等との連携を図り、検査等の機能分担を行った。 ○日本海総合病院では、オプション部分である上・下部内視鏡、胸部CTを行った。 【H24実績】オプションの件数 上部内視鏡 138件 下部内視鏡 138件 胸部CT 139件	◇日本海総合病院の人間ドックの見直しを行い、公益財団法人やまがた健康推進機構や診療所等との連携を図り、検査等の機能分担を行ったか。	A	▽他の関係機関と連携して、検査等の機能分担を行った。	A	自己評定のとおり
(4) 地球環境にやさしい病院づくり						
日本海総合病院においては、地球環境にやさしい病院づくりのため、ソーラーパネルの設置やLED照明の導入を検討する。	A重油を燃料とするボイラー等から天然ガスを燃料とするものに切り替えを行い、CO ₂ 排出の削減を行った。また、給食調理で発生する使用済み食用油（廃油）については、リサイクルに協力を行い、その有効利用を図った。	◇地球環境にやさしい病院づくりに努めたか。	A	▽社会的責任（CSR）の観点から、地球環境に配慮した取り組みを行った。	A	自己評定のとおり
(5) 酒田市飛鳥診療所への支援						
酒田市の離島にある飛鳥診療所は、平成24年度から常勤医師が不在となることが予想されるため、常勤医師が確保されるまでの間、酒田市の要請に基づき、日本海総合病院の医師が週に1回の割合で飛鳥診療所の診療支援を行う。	酒田市飛鳥診療所について、酒田市の要請に基づき4月から10月までの間、日本海総合病院の医師が金曜日と土曜日に診療支援を行った。 【H24実績】派遣医師数等の人数 派遣医師数 24名 診療日数 48日 延べ患者数 517名	◇酒田市飛鳥診療所への診療支援を行ったか。	S	▽4月から10月まで、現地に医師を派遣し診療を行った。 ▽年間を通して平日夜間及び休日において、急患が発生した場合であっても迅速に対応できるよう支援した。	S	自己評定のとおり